

第 78 回 通常総会 農畜産物支払高 46 億 5711 万円



西田組合長による開会挨拶

5月28日、第78回通常総会が農協2階会議室にて開催されました。

総会には正組合員160名のうち、委任・書面議決を含む119名が出席（出席率74.4%）。

議事では、「令和7年度事業報告」「令和8年度事業計画」「農地信託規程の一部変更」など7議案を審議し、すべて原案どおりに可決されました。

開会にあたり、西田組合長は昨年度を振り返り、「高温干ばつによる厳しい状況ではあったものの、組合員の皆様のご協力により、酪農畜産における乳価や個体販売価格の上昇などもあり、経常利益8600万円、当期剰余金7600万円となり、当初計画を上回る利益を確保することができた」と報告しました。

また、「我が国の実質GDPや消費者物価指数は僅かながら上向きとなっているが、不安定な世界情勢に翻弄されている実情のなか、円安と石油系原料の流通量の停滞により、資材不足とともに、すべてのコストが上昇しており、農業などの一次産業に関わる経営体にとっては

厳しい状況になっている。そのなかで『食料・農業・農村基本法』の本格施行で、食料安全保障に関する見直しがされ、自給率を高めコストに見合った価格形成を目指す議論が積極的に進められるようになったが、それとともに『みどりの食料システム戦略』等の政策により環境負荷への配慮など求められることが非常に多く、農業を取り巻く情勢は一筋縄ではいけないというのが実感である」と述べました。

さらに、「十勝管内では大規模灌水事業や十勝 AI 農業特区構想、フードバレーとかちなどの推進、帯広川西 IC フードテックパーク事業組合の立ち上げなど、未来に向けて着々と進んでいる。我が札内農協も、時代に即した農協であるために、情報収集と柔軟な対応に努め、組合員の皆様とともに発展していく」と力強く語りました。

引き続き、来賓としてご臨席いただいた幕別町の飯田晴義町長、北海道信用農業協同組合連合会帯広支所の堀貴憲支所長より祝辞をいただいた後、出席者の中から白木教嗣さん（白人西 29 区）が議長に選出され、議事に入りました。

当期末処分剰余金 9074 万円のうち、事業分量配当金 2802 万円、出資配当金 840 万円（配当率 1.0%）を配当することが承認されました。8 年度計画では、事業総利益 5 億 2460 万円、経常利益 5004 万円を見込んでいます。また、固定資産の取得計画として、野菜選果場のフォークリフトやゴボウ施設の LED、ガソリンスタンドのシステム更新などを予定しています。



幕別町畜産祭り



経産牛の部で最高位を受賞した藤原広さん

6月3日、「幕別町畜産祭り」が町営南勢牧場にて開催されました（実行委員会主催）。

畜産農家の皆さんが丹精を込めて育てた乳牛24頭・肉牛14頭がエントリーし、体格や品位などを競いました。会場には多くの生産者や関係者が集まり、日頃の飼養管理の成果を披露するとともに、技術向上や情報交換の場となりました。

審査員は、乳牛をジェネティクス北海道の早川泰斗氏、肉牛を十勝農協連の山中格氏が務めました。

審査の結果、乳牛の部では藤原広さん（日新地区）が経産牛部門で、久保田良幸さんが（同）が未經産牛部門で最高位に輝きました。

各部門で上位入賞した生産者には記念品などが授与され、その努力と成果が称えられました。

共進会終了後には、バーベキューやお楽しみ抽選会が行われ、充実した1日となりました。

販売対策協議会



京都青果合同株式会社の岡本部長よりご挨拶をいただきました

5月30日、十勝蕁焼炉端の一心にて販売対策協議会を開催いたしました。

当日は、関西を中心とした10市場の担当者を招き、当JAの役職員、生産部会役員、ホクレンなど26名が参加しました。

協議会では、ホクレン青果課より市場作物の販売動向や生育状況について説明が行われました。参加者は、近年の消費動向や流通情勢について理解を深めるとともに、販売に向けた課題や今後の見通しについて情報を共有しました。

また、市場担当者からは、産地への要望や販売現場からの声が紹介され、生産者との活発な意見交換が行われました。参加者は市場ニーズの理解を深め、より良い品質の農産物生産と安定供給に向けて認識を共有しました。

協議会終了後には懇親会を開催し、参加者同士が交流を深めました。市場関係者と生産者が直接意見を交わす貴重な機会となり、今後の販売拡大に向けた連携強化につながる有意義な時間となりました。